

原著論文

## 4モーラ名詞から見るやんばるヤマトウグチのアクセントの記述と分析 —本部町山里を例に—

麻生 玲子\*

### How do Yamatoguchi accents vary across Okinawa? A preliminary survey and analysis of four-mora nouns in Yamasato, Motobu

Reiko ASO\*

#### 要 旨

本論文は、沖縄本島内で話されているヤマトウグチのアクセント差の解明に向け、調査で得られたデータからアクセント体系の予備的考察を行うものである。まず、予備調査として行った無意味語を使用した調査結果を示し、ヤマトウグチ話者自身が考える方言の地域差がアクセント差であることを示す。さらにその地域差を明らかにするために、沖縄県本部町山里出身のインフォーマントから得た4モーラ名詞のデータを提示し、中南部のヤマトウグチとは異なる中心的な3つのパターンを記述する。3つのパターンとは、①全体を通して低ピッチでかつピッチ変動がないもの、②最終音節のみが高いもの、③初頭音節直後にピッチの下がり目があるものである。これらの結果から、本部町山里のヤマトウグチの4モーラ名詞では、少なくとも3つ以上のアクセントを認める必要があると結論付けた。巻末には付録として435語の名詞と当該名詞を枠文に入れた際のピッチパターンを収録した。本論文は沖縄本島内のヤマトウグチのアクセント体系の多様性解明に向けた基礎研究として位置づけられる。

キーワード：ヤマトウグチ、アクセント、やんばる、沖縄本島北部、本部町山里

#### Abstract

This paper examines data from a field survey to clarify the accent differences in Yamatoguchi spoken throughout the main island of Okinawa. First, a preliminary survey using a non-word revealed that the regional dialects among Yamatoguchi speakers differ in accent. To further clarify the regional differences, four-mora nouns from the Motobu-Yamasato dialects are analyzed. The results show that there are three main pitch patterns: (1) only the final syllable is high, (2) the pitch is low throughout and does not fluctuate, and (3) the pitch drops immediately after the first syllable. Based on these results, I conclude that four-mora nouns have at least three accent patterns in Motobu-Yamasato Yamatoguchi. The appendix provides the pitch patterns of 435 nouns spoken in isolation and in a frame sentence. This paper is positioned as a basic study to clarify the diversity of Yamatoguchi accent systems throughout the main island of Okinawa.

Keywords: Yamato-guchi, accent, Yambaru, Okinawa, Motobu-cho

\* 名桜大学国際学群 〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 Faculty of International Studies, Meio University. Biimata 1220-1, Nago, Okinawa. 905-8585

## 1. はじめに

本論文は、沖縄本島内におけるヤマトウグチ<sup>1</sup>のアクセント差の解明に向け、新規に得られた調査データからアクセント体系の予備的考察を行うものである。まず無意味語を使用した予備調査の結果及び、沖縄県本部町山里出身のインフォーマントから得た4モーラ語のデータを提示し、そこから導き出される結果を提示する。本論文は今後も続くヤマトウグチアクセントの報告の第一報である。

本論文では、かりまた(2010:32)に倣い、ヤマトウグチを日本語の一変種であり、「琉球方言と本土方言を親言語とする接触言語」と定義する<sup>2</sup>。この場合の「接触」とは、伝統方言(琉球諸語)を母語としていた人々の日本語の獲得の過程だと言い換えられる(屋比久1987、高江洲2002、真田2001、かりまた2008)。なお、沖縄本島中南部で話されているヤマトウグチは、特に「ウチナー(沖縄)ヤマトウ(日本本土)グチ(ことば・口)」と呼ばれる(小川2017:1)。

近年、ウチナーヤマトウグチの文法的な記述は増えているが(座安2017等)、音韻論、特にアクセントの記述研究はまだ少数である。一方、永田(1993:88)は「各地で使われる地域共通語が異なり話者の出身地が推察できるほど」だと述べており、当該文章が執筆された20年後の現在でも沖縄本島出身の二十歳前後の若者が、中南部と北部の(アクセントの違いと考えられる)方言差を認識している。このことから、本島内でもアクセント体系がかなり異なることが予測される。しかしながらその違いを明確にした研究は、管見の限り見当たらない。本論文は沖縄本島内のヤマトウグチのアクセント体系の解明に向けた基礎研究として位置づけられよう。

本論文は5節から成る。1節(本節)では研究の目的と背景を述べた。2節で先行研究に触れ、問題点を明らかにする。その後、3節で問題点を受けて実施した予備調査について述べ、予備調査の結果を受けて実施した本調査結果の一部を4節で提示し、結果を述べる。最後に5節で結論と今後の展望についてまとめる。

## 2. 先行研究

### 2.1 小川(2017)のウチナーヤマトウグチのアクセントに関する記述

数少ないヤマトウグチのアクセント研究の中で、小川(2017)は、中南部のヤマトウグチに関して、中南部出身の10人を対象にアクセント調査を行い考察した。小川は、話者の発音した単語が、東京方言<sup>3</sup>のアクセントとどの程度一致しているかによって、①やまとタイプ ②中間タイプ ③うちなータイプ、という3つのタイプに分けた。

①は、東京方言の多型アクセントのような体系で発音をする話者グループである。東京方言アクセントとの一致率も高い。②は、分析が難しく、やまとタイプとうちなータイプの中間に位置づけられる話者グループである。東京方言アクセントとの一致率の観点からも中間的な位置にある。③は、沖縄語首里方言<sup>4</sup>の二型アクセント(平板型・下降型<sup>5</sup>)のようなピッチパターンが観察される話者グループである。

調査結果を受け、小川(2017:7-8)は大きく2つの問題を挙げた。まず、中間タイプの取り扱いが難しいという点である<sup>6</sup>。次に、結果が世代差や地域差、個人差による可能性があると言う点である。このような点から、話者のタイプをある程度認識・把握したうえで分析することが不可欠であると指摘した。

### 2.2 本論文の指針

本論文では、先行研究で指摘された点、すなわち②に分類される話者のアクセントの扱いが困難であるという指摘から、③の「うちなータイプ」の協力者を意識的に選抜する。うちなータイプの話者を選ぶことにより、地域差がより明確になることが期待される。なお東京方言アクセントが、「話者の出身地が推察できるほど」(永田1993)の地域差には関与しないという前提のもと、②の他、①も除外する。

次に、先行研究の指摘のうち、世代差と地域差の違いを排除するために、年齢と地域を限定し調査を実施する。

<sup>1</sup> 本論文では、従来「ウチナーヤマトウグチ」と呼ばれる言語の内部の違いが不明な段階であるという立場から、本島内のヤマトウグチ一般を指す場合には頭に「ウチナー」とは付けず、単に「ヤマトウグチ」と呼ぶ。

<sup>2</sup> ロング(2010:27)によると、ヤマトウグチは言語接触論の観点から、様々な現象との共通点があるものの、従来の概念とは異なる重要な点が見られるという。これを受け、かりまた(2010:33)は、一般的に「ヤマトウグチ」と呼ばれる言語を、言語接触の観点から「琉球・クレオロイド日本語」という名称で呼んでいる。本論文で使用する「ヤマトウグチ」は、「琉球・クレオロイド日本語」と同一のものを指すが、言語現象の記述に重点を置くため、当該言語の呼称については、現在、より一般的に用いられていると思われる「ヤマトウグチ」を採用した。

<sup>3</sup> 小川(2017)の本文には「標準語」とあるが、明確にするため「東京方言」と読み替える。

<sup>4</sup> 小川(2017:3)には「琉球語」とあるが、おそらく首里方言を指すため著者の責任で変更した。

<sup>5</sup> 沖縄語首里方言の平板型アクセントは、語の初めから終わりまで大体同じピッチが続き、一方、下降型は平板型より高く始まり、語の途中(2モーラ目あたり)でピッチが下降する(国立国語研究所2001:53)。

<sup>6</sup> このタイプの解釈、すなわちなぜ中間的な特徴を持っているのかについて、小川(2017:7)では2つの可能性を挙げている。1つ目は①と③のバイリンガルで、コードスイッチがうまくいかなかった可能性で、もう1つは一部を伝統的なアクセントのピッチパター

さらに、研究の目的である沖縄本島内のヤマトウグチのアクセント差を解明するために、北部のヤマトウグチを研究対象に加える。管見の限り、沖縄北部のヤマトウグチのアクセントに関する先行研究は今帰仁のもの（小川2012）くらいである。したがって、本論文は本島北部のヤマトウグチアクセント資料を蓄積するという側面もある。

### 3. 予備調査

#### 3.1 予備調査の方法

予備調査は、うちな一タイプの話者を選抜する目的と、ヤマトウグチを母語とする話者が感じる方言差が、アクセントによるものなのかどうかを捉えるために実施した。この目的を達成するために、1つの無意味語「パラマサ ソゴホジョモド」（窪園2006:1）を用いたアクセント調査を実施した。無意味語を使用する理由は、その語を聞いたことがあるか、あるいはないかといった記憶によるものではなく、純粋に個々の話者が内部に持つアクセント規則によって、その地域のしかるべきアクセントで当該語が発音されることが予測されるからである。

著者および2021年度開講の「国際文化専門演習Ⅱ（麻生玲子）」の履修者3名<sup>7</sup>が、名桜大学の学生を中心に予備調査への協力を依頼し、研究の趣旨と調査内容を説明し、口頭で承諾が得られた若年層話者（19～40歳）36名を予備調査への参加者とした。

このうち、本島内の大きな地域（北部・中部・南部）を超えた引越し歴のない参加者のデータのみ使用した（34名）。基礎的な簡易調査であるため、録音機はスマートフォンあるいは簡易録音機を使用した。調査で得られたデータのピッチパターン（音の高低）の認定は、著者および上記授業の履修者で実施した。すべての認定の最終責任者は著者である。

#### 3.2 予備調査の結果

予備調査の結果を表1に示す。なお、[角括弧]で囲まれた範囲は高ピッチであることを示し、(丸括弧)で囲まれた範囲は中程度のピッチであることを示す。何も囲まれていない場合は低ピッチであることを示す。下向き矢印(↓)は、モーラ内下降を示す。

表1：沖縄本島出身者の無意味語のピッチパターン（地点別）

番号	地域	地点	データ
1	北部	名護	(パラマサ ソゴホジョ)モド
2	北部	名護	(パラマサ ソゴホ)ジョモド
3	北部	名護	パラマサ ソゴホジョモ[ド]
4	北部	名護	パラマサ ソ[ゴホジョ]モド
5	北部	名護	パラマサ ソ[ゴホジョ]モド

ンで代用している可能性である。

<sup>7</sup> 履修者の氏名については謝辞を参照されたい。

番号	地域	地点	データ
6	北部	名護	[パラマサ ソゴホジョ]モド
7	北部	本部	(パラマサ ソゴホジョ)モド
8	北部	今帰仁	パ[ラマサ] ソ[ゴホジョ]モ[ド]
9	北部	宜野座	パラマ[サ] ソ[ゴホジョ]モド
10	中部	うるま	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
11	中部	うるま	[パラマサ] ソゴホジョ]モド
12	中部	うるま	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
13	中部	うるま	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
14	中部	うるま	パラマ[サ] ソ[ゴホジョ]モ[ド]
15	中部	読谷	パ[ラ](マサ) ソ[ゴホジョ]モド
16	中部	沖縄市	[パラマサ] ソ[ゴホ]ジョ[モ]ド↓
17	中部	嘉手納	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モ[ド]
18	中部	北谷	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
19	中部	北谷	[パラマサ] (ソ)[ゴホジョ]モド
20	中部	北谷	パラマ[サ] ソ[ゴホ]ジョ[モ]ド
21	中部	北谷	パ[ラマサ] ソ[ゴホ]ジョモド
22	中部	宜野湾	[パラマサ] ソ[ゴホジョ](モ)ド
23	中部	宜野湾	[パラマサ] ソゴホジョ]モド
24	中部	浦添	[パラマサ] ソゴホジョ]モ[ド]
25	中部	浦添	パラマサ ソ[ゴホジョ]モド
26	中部	浦添	パ[ラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
27	南部	那覇	[パラマサ] ソゴホジョ](モ)ド
28	南部	那覇	パ[ラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
29	南部	那覇	パ[ラマサ] ソ[ゴホジョ]モド
30	南部	那覇	パラマ[サ] ソ[ゴホジョ]モド
31	南部	八重瀬	[パラマ]サ↓ [ソゴホジョ]モド
32	南部	豊見城	[パラマサ] [ソ]ゴホ[ジョ]モド
33	南部	糸満	パラマ[サ] [ソゴホ]ジョモ[ド]
34	南部	糸満	[パラマサ] ソ[ゴホジョ]モド

得られたデータを分析した結果、地域別の説明が完全にできるわけではないが、個人差ではなく、地域別の傾向と呼べるものが大きく3つ認められた。まず、北部は中南部に比べ、前半部分が低～中程度のピッチのまま発話される傾向が見られる(表1の番号1～5、7)。次に、中南部は初頭音節のピッチが高いという傾向が見いだせる。最後に、南部の中でも糸満や豊見城では、「ソゴホジョモド」のピッチパターンが、他の地域では全く観察されないものであった(表1の番号32、33)。

本調査は予備調査であり、今後よりよい録音にてさらなる調査・分析を行い、ピッチ曲線を提示しながら論じる必要があるが、表1の地域別のピッチパターンの傾向というのが、話者自身が考える地域差である可能性が高いことが分かる。これはすなわちアクセントの違いだと言い換えられる。

## 4. ヤマトウグチの4モーラ語調査

### 4.1 調査方法

予備調査の結果から、ヤマトウグチに感じられる地域差の少なくとも一部は、アクセントによるものである可

能性が認められた。この結果を受け、各ヤマトウグチのアクセント体系をさらに詳しく記述するために、4人に対し4モーラ語のアクセント調査を行った。予備調査に参加した話者の中で、当該地域に代表されるようなパターンで発話した話者に協力を仰ぎ、北部では名護市と本部町、中部では沖縄市、南部では糸満市出身の話者の協力が得られた。小川(2017)の言う「うちなータイプ」の話者を選抜する目的で、当該地域の話者条件を、なるべく両親が共にその地域出身であること、および県外での生活経験がないこと、とした。

調査語彙は、小川(2017)の付録にある調査語彙および中澤光平氏(信州大学)から提供された語彙リスト(未公開)から、4モーラ語でかつ、二十歳前後の日本人が日常的に使用するであろう508語を選別したものである。選別は2021年度後学期開講の「国際文化専門演習Ⅱ(麻生玲子)」の履修者が行った。すべて名詞である。語彙を印刷した原稿を用意し、読み上げ方式で上記の対象者に調査を行った。508語の単独発話に加え、「～の話」という枠文に入れた発話も録音し、合計1,016点の発話を収集した。

4モーラ語を選択した理由は大きく2つある。まず、予備調査にて、低平や高平のピッチパターンが多く観察されたため、短い語だと聞き取りにくいと判断したからである。これに加えて、語のモーラ(や音節)に応じてピッチパターンが増える「多型アクセント体系」か、あるいはモーラ(や音節)によらずピッチパターンの数が変わらない「N型アクセント体系」かを予備的に考察するためには、ある程度長さのある語がよいと判断したからである。アクセント体系を正確に特定する際には、1～3モーラ語もまんべんなく収集されるべきであると考えられる。今後の調査課題だと言えよう。

本論文ではまず本部町のデータを提示する。調査の情報を下記に記す。録音した音声のピッチパターンを著者がPraat(アプリケーション)を用いてアノテーションを行った。その結果、再度確認が必要であると判断した語に対して、追加の面接調査を行った。追加調査に関しては録音を行っていない。

- 被調査者：2002年生まれの女性。0歳から7歳までを本部町東、7歳から19歳までを本部町山里で過ごした。本人の本部町外での居住歴はない。父親は本部町出身、母親は沖縄市出身である。
- 使用機材：TASCAM DR-07MKII
- 調査日時：2021年12月10日
- 調査場所：名城大学学生会館5階(研修室B)

#### 4.2 倫理的配慮について

被調査者へは氏名、生年、出身地等に関する情報およ

び、録音データの公開に関して説明を行い、同意書に自筆のサインをもらうことで、同意を得た。同意撤回書を同時に渡しており、同意の撤回はいつでも可能であるという旨および、(論文等ですでに出版されている以外の)データは、いつでも公開を中止できる旨を説明した。

#### 4.3 本部町(山里)4モーラ語調査の結果

本部町山里の調査では、単独の発話および枠文の発話それぞれ435点有効であった。すべての発話のピッチパターンは巻末の付録に付けた。本データを分析した結果を以下に述べる。4.3.1で単独形のピッチパターンについて、4.3.2で枠文に入れた際のピッチパターンについて記述し、4.3.3で結果を考察する。

##### 4.3.1 単独形のピッチパターン

データを分析した結果、単独の発話では代表的なパターンが下記のとおり3つ観察され、その他に現段階では分類しきれないものが観察された。分類しきれなかったものも含め、それぞれのピッチパターンについて記述する。まずは代表的な3つのピッチパターンを記述する。以後、○は1軽音節(モーラ)を示す。重音節を含む場合は実例で示す。

1. ○○○○(～(○○○○)～[○○○○])：全体を通してピッチの変動がない。
2. ○○○[○]：最終音節(／モーラ)が高く、その直前までは低ピッチでその間のピッチの変動はない。
3. [○]○○○(～[○]○○[○])：初頭音節(／モーラ)直後にピッチの下がり目がある。

まず、1は最も多く観察されたパターンである。このパターンが観察された語は、435語中、167例であった。本パターンは、語頭から、語末までピッチ変動がないパターンである。明らかにピッチが高い語と、高いとも低いとも決めにくいピッチの場合が観察された。

- (1) [サクキン]、[ウンドー]、(コーヒー)、(サクブン)

次に2は、末尾音節が高く実現し、末尾音節までは低ピッチで実現するパターンある。157例見つかった。(2)に末尾音節が軽音節の場合の例を、(3)に最終音節が重音節の例を挙げる。

- (2) テーブ[ル]、ジョギン[グ]、オミク[ジ]  
 (3) ガソ[リン]、ネン[レー]、アジ[サイ]

3は、語頭音節が高ピッチで実現し、その後低いピッチへ移行し、語末まで低いままで実現する。51例見つかった。このパターンで実現するほとんどの語は重音節始まりの語であった。最終音節が高ピッチで実現する場合もある。これは4.3.2で述べるイントネーションの影響で

あると考える。

(4) [ア] クセル、[テン] ション、[リョー] シン (両親)

重音節始まりの語の内、少数の例で語頭 (音節ではなく) モーラが高ピッチで実現する例が観察された (下記4例)。

(5) [エ] ンジン、[チュ] ーガク (中学)、[ノ] ーリョク (能力)、[オ] ンガ [ク] (音楽)

現段階では分析しきれなかったピッチパターンを挙げる。まずは上記1～3の特徴を併せ持つ例である。全部で48例見つかり、データにはどの特徴との混合かを記した。この他に、全く別のパターンが13例あった。このうち、4例以上同じピッチパターンが確認されているもののみ紹介し、それ以下の語数でしか確認できなかったものに関しては、データを直接参照されたい。

まずは2モーラ目のみが高いピッチで実現するパターンである。このピッチパターンは、3音節以上の(4モーラ)語で見つかった。6例見つかった。上述したように、最終音節が高ピッチで実現する場合もある。これは4.3.2で述べるイントネーションの影響であると考えられる。

(6) ス [プ] ーン、ト [ラッ] ク、ス [ペ] イン、イ [エ] ロー、オ [ト] ト [シ] (一昨年)、オ [ト] ナ [リ] (お隣)

次に、3モーラ目が高ピッチで実現するパターンである。曜日に関する語で4例見つかった。

(7) キン [ヨ] ー、ゲツ [ヨ] ー、スイ [ヨ] ー～スイ [ヨー]、ニチ [ヨ] ー～ニチ [ヨー]

#### 4.3.2 枠文に入れた場合のピッチパターン

次に、「～の話」という枠文のピッチパターンについて記述する。本データを分析すると、同じ語であっても文節末音節が高ピッチで実現する場合と、低ピッチで実現する場合があることに気づく。なお、「文節」とは本論文で「語」あるいは「語+助詞」を指す。例えば、次の例で「～のはなし」の末音「し」の部分が、(8)の場合は低く、(9)の場合は高い。

(8) シーエ [ム] の はなし

(9) ジョギン [グ] の はなし

このことから、おそらく本部町山里のヤマトウグチでは、アクセントとは別に、文節末に高ピッチのイントネーションがかぶさることがあると考えられる。(8)の例でいえば、「シーエム」の「の」、(9)では「はなし」の「し」がイントネーションのかぶさった例である。ここで問題となるのは、先ほど単独形で「○○○ [○]」と分析した語が真に「○○○ [○]」なのか、あるいは「(○○○○)」

(等) に文節末イントネーションがかぶさって「○○○ [○]」と実現してしまっただけなのか、という点である。しかし、観察していて少なくとも平板の(○○○○)というパターンと末音節が高い「○○○ [○]」というパターンの区別は、(10)と(11)の例の比較から認められよう。

(10) (オシロイ)～オシロ [イ]:オシロイ [の] はなし [し]

(11) クレ [ヨン]:クレ [ヨンの] はなし [し]、クレ [ヨンの] はなし [し]

(10)のような基底で「(○○○○)」と認められる語は、イントネーションがかぶさり、語の最終音節が高ピッチで実現する場合もあるが(オシロ [イ])、少なくとも枠文に入った際には文節末「の」にイントネーションのかぶさるターゲットが移動する。例えば、「オシロイ」と「オシロイの」を例にとると、単独形では「イ」、枠文であれば「の」がターゲットである。(10)を見ると、枠文では「イ」が高ピッチで実現しないことから、単独形の「イ」の高ピッチはイントネーションである可能性が高いと言えよう。一方、(11)のような、基底で○○○ [○]と認められる語は、枠文に入れた場合にも語の最終音節「ヨン」は高ピッチで実現し、「の」のイントネーションは任意でかぶさる。

以上のことから、基底にて(○○○○)と○○○ [○]は区別されていると考え、本論文ではこの2つのパターンを枠文によりできる限り区別した。これらを踏まえ、先に述べた3つの代表的ピッチパターンに対する枠文(「～の」)のピッチパターンを記述する。

基底でピッチの変動がない平板の場合は「(○○○○の)」あるいは「○○○○ [の]」で実現する。

(12) (コクバン):コクバン [の]、(サクブン):(サクブンの)

基底で最終音節が高ピッチで実現する語の場合は「○○○ [○] の」あるいは「○○○ [○の]」で実現する。(12)に単独形の語末が軽音節の例、(13)に重音節の例を挙げる。

(13) サカダ [チ]:サカダ [チ] の、ケンガ [ク]:ケンガ [ク] の

(14) ガソ [リン]:ガソ [リン] の、ビョー [イン]:ビョー [イン] の

基底で語頭音節が高ピッチで実現する語の場合は「[○] ○○○の」あるいは「[○] ○○○ [の]」で実現する。

(15) [デ] ジタル:[デ] ジタル [の]、[コン] カイ:[コン] カイの

一方で、特に、ピッチの変動がない語と最終音節が高

ピッチで実現する語で、(16)(17)のようにどちらか区別しきれない語も見ついている。この原因が聞き取りの問題なのか、分析の問題なのかは現段階では分からない。

(16) (ポケット) : ポケッ [トの]

(17) チャバシ [ラ]:チャバシラ [の] ~チャバシ [ラの]

#### 4.3.3 考察

以上、本部町山里のヤマトウグチにおける4モーラ名詞のピッチパターンを観察してきた。表2に、単独形と枠文に入れた際の形を、イントネーションがかからない場合(①)とかかる場合(②)に分けてまとめる。これらの結果からまず言えることは、3つのパターンに所属する語彙が大半を占めるということである。これが調査語彙の問題で偏りが生じているのか、あるいは当該言語のアクセント体系を反映したものであるかはさらなる調査が必要である。しかし、少なくとも4モーラ名詞に3つのアクセント型を認める必要はあると言えよう。その他のピッチパターンをどのように考えるかという点に関する問題や、数える単位が音節かモーラかといった詳細な分析は今後の課題とする。

表2：本部町山里のヤマトウグチ4モーラ名詞の代表的な3つのピッチパターン(軽音節から成る語の場合)

グループ	単独形①	単独形②	枠文①	枠文②
1	○○○○	○○○[○	○○○○の	○○○○[の
2	○○○[○	○○○[○	○○○[○]の	○○○[○の
3	○]○○○	○]○○○[○	○]○○○の	○]○○○[の

本節で示した結果は、小川(2017)で示されている(うちなタイプの)ウチナーヤマトウグチアクセントとは異なる。例えば、代表的な3つのパターンのうち、「最終音節(／モーラ)が高く、その直前までは低ピッチでその間のピッチ変動はない」というパターンは報告されていない。さらに、3.2の予備調査の結果からも分かるように、語頭から語末までピッチの変動がないパターンであっても相対的に見た場合、北部は全体的に低めのピッチが実現するのである。これらの相違は、まさにヤマトウグチ話者が方言差・地域差・その地域らしさだと感じる理由の1つであり、少なくとも北部のヤマトウグチを中南部とは分けて考える方が妥当であろう。したがって、以後、北部のヤマトウグチを「やんばるヤマトウグチ」と呼ぶこととする<sup>8</sup>。

## 5. おわりに

本論文では、本島内で話されるヤマトウグチについて、

話者が地域差と感ずるものがアクセント差である可能性を示し、その仮説のもと、本部町山里のやんばるヤマトウグチの4モーラ名詞のデータの提供と分析を行った。この結果、本部町山里のやんばるヤマトウグチには代表的なパターンが3つあることを提示し、4モーラ語には、少なくとも3つ以上のアクセント型を認める必要があると結論付けた。これ以外に1~3の特徴を併せ持つ「混合型」と、混合型にも当てはまらない「その他」のピッチパターンも示した。後者の語彙とピッチパターンを見ると、東京方言の影響も考えられる。今後、分析の際に伝統方言のアクセント体系との比較や、1~3モーラ語のアクセント資料および名詞以外の品詞のアクセント資料を収集することで検証できる可能性が高いと考えられる。さらなる調査と分析が期待される。

本論文の着想の出発点は、本島出身の本学学生・教職員の気づきによるものである。このような気づきは身の回りに山ほどあるが、その実態を根拠に基づき実証的に明らかにする機会はほとんどない。今回は、着任後著者がよく耳にして気になっていた「本島北部出身だとすぐ分かる／ばれる」「本島内でも地域ごとでことばが全然違う」という話者の気づき(あるいはもう当たり前の事実として認識している事)に対し、記述言語学の手法を用いた研究を試みた。すべての疑問に答えたとは決して言えないが、本島内のアクセント差を解明するための第一歩となったと言えよう。今後も基礎資料を学生と共に蓄積し、公開したい。

## 謝辞

本論文に関わる研究は、科学研究費助成事業・若手研究「日本の消滅危機言語を対象とした大量の言語資料収集・蓄積方法に関する基礎研究」(研究代表者:麻生玲子;18K12390;2018年度~2023年度)の助成を受けている。調査員として協力して下さった名桜大学2021年度後学期開講「国際文化専門演習Ⅱ(麻生玲子)」の履修者である坂元萌花さん、高田天音さん、本木里香さん(五十音順)、本部町山里やんばるヤマトウグチのインフォーマントとして協力して下さった松田奏良さん、予備調査・4モーラ名詞調査に協力して下さった名桜大学の学生の皆さん、名桜大学の職員の皆さん、調査員の関係者の皆さん、調査語彙リストを共有し、原稿に目をとおして下さった信州大学の中澤光平さん、2名の匿名査読者にお礼申し上げます。ありがとうございました。

<sup>8</sup> 「やんばるヤマトウグチ」と一口に言っても、やんばる地域内でのアクセント差も間違いなく存在する。例えば、「現代日本語論」(2022年度前期)の授業内で実施した簡易調査では、名護市内であっても宮里出身者と大北出身者で異なる結果が得られた。引き続き、北部各地のアクセント資料の収集と分析が期待される。

参照文献

かりまたしげひさ(2008)「トン普通語・ウチナーヤマトウグチはクレオールかー琉球・クレオール日本語研究のためにー」『南島文化』30: 55-65.

——(2010)「琉球クレオロイドの性格」石原昌英・喜納育江・山城新(編)『沖縄・ハワイ コンタクト・ゾーンとしての島嶼』31-42. 東京: 彩流社.

国立国語研究所(2001)『沖縄語辞典』国立国語研究所資料集(5). 東京: 財務省印刷局.

窪蘭晴夫(2006)『アクセントの法則』東京: 岩波書店.

ロング・ダニエル(2010)「言語接触論から見たウチナーヤマトウグチの分類」『人文学報』428: 1-30.

永田高志(1993)「沖縄に生まれた共通語(音韻・アクセント篇)」『琉球の方言』17, 88-117.

小川晋史(2012)『今帰仁方言アクセントの諸相』東京: ココ出版.

——(2017)「ウチナーヤマトウグチのアクセントについてのおぼえがき」『熊本県立大学 文学部紀要』23: 1-22.

真田信治(2001)『方言は絶滅するのかー自分のことばを失った日本人ー』東京: PHP研究所.

高江洲頼子(2002)「ウチナーヤマトウグチをめぐって」『国文学 解釈と鑑賞』67(7): 151-160.

屋比久浩(1987)「ヤマトウグチとヤマトウチナーグチ」『国文学 解釈と鑑賞』52(7): 119-123.

座安浩史(2017)『ウチナーヤマトウグチの研究』東京: 森話社.

付録：本部町山里のやんばるヤマトウグチアクセント資料(4モーラ名詞)

グループ	番号	ピッチ
1	1-1	(マネキン)
1	1-2	[マネキンの]はな[し]
1	2-1	(コーヒー)
1	2-2	コーヒー[の]はなし
1	3-1	(オレンジ)
1	3-2	オレンジ[の]はな[し]
1	4-1	(トランプ)
1	4-2	トランプ[の]はな[し]
1	5-1	(ブレーキ)
1	5-2	ブレーキ[の]はな[し]
1	6-1	(アンシン)
1	6-2	(アンシン)[の]はな[し]
1	7-1	[ウンドー]
1	7-2	(ウンドー)[の]はなし
1	8-1	[レンシュー]
1	8-2	(レンシュー)[の]はな[し]
1	9-1	[エーギョー]
1	9-2	(エーギョー)[の]はな[し]
1	10-1	[フートー]
1	10-2	[フートー]はな[し]
1	11-1	[レートー]

グループ	番号	ピッチ
1	11-2	(レートー)[の]はな[し]
1	12-1	[サクキン]
1	12-2	[サクキンの]はな[し]
1	13-1	[テッパン]
1	13-2	[テッパンの]はな[し]
1	14-1	[チョッカン]
1	14-2	[チョッカンの]はな[し]
1	15-1	[ガッコー]
1	15-2	(ガッコー)[の]はな[し]
1	16-1	[タッキュー]
1	16-2	[タッキューの]はな[し]
1	17-1	[インサツ]
1	17-2	(インサツ)[の]はな[し]
1	18-1	ヤッキョ[ク]
1	18-2	(ヤッキョクの)はな[し]
1	19-1	(コクバン)
1	19-2	コクバン[の]はな[し]
1	20-1	(サクブン)
1	20-2	(サクブンの)はな[し]
1	21-1	(バクダン)
1	21-2	バクダン[の]はな[し]
1	22-1	(ショクドー)
1	22-2	ショクドー[の]はな[し]
1	23-1	(リクジョー)
1	23-2	[リクジョーの]はな[し]
1	24-1	(アサガオ)
1	24-2	アサガオ[の]はな[し]
1	25-1	[アリ-ノ+ス]
1	25-2	アリ-ノ+[スの]はな[し]
1	26-1	(イブクロ)
1	26-2	イブク[ロ]の]はな[し]
1	27-1	[インネン]
1	27-2	[インネンの]はな[し]
1	28-1	ウメボ[シ]
1	28-2	[ウメボシの]はな[し]
1	29-1	オシロ[イ]~(オシロイ)
1	29-2	オシロイ[の]はな[し]
1	30-1	[カンノー]
1	30-2	[カンノーの]はな[し]
1	31-1	カムム[リ]
1	31-2	[カムムリの]はな[し]
1	32-1	ゲー[ゼン]
1	32-2	(ゲーゼンの)はな[し]
1	33-1	(クスリヤ)
1	33-2	クスリヤ[の]はなし
1	34-1	[ケッコン]
1	34-2	[ケッコンの]はな[し]
1	35-1	(シマグニ)
1	35-2	シマグ[ニの]はな[し]
1	36-1	(シマジマ)
1	36-2	シマジマ[の]はな[し]
1	37-1	シミジ[ミ]
1	37-2	シミジミ[の]はな[し]
1	38-1	ジメ+ジ[メ]
1	38-2	ジメ+ジメ[の]はな[し]
1	39-1	ショーバ[イ]
1	39-2	ショーバイ[の]はな[し]
1	40-1	ジョーブ[ツ]
1	40-2	ジョーブツ[の]はな[し]
1	41-1	(ショーメン)
1	41-2	ショーメン[の]はな[し]
1	42-1	シロー[ト]

グループ	番号	ピッチ	グループ	番号	ピッチ
1	42-2	シロート[の]はな[し]	1	73-2	ナガグツ[の]はな[し]
1	43-1	(シintai)	1	74-1	ナカユ[ピ]
1	43-2	シintai[の]はな[し]	1	74-2	ナカユビ[の]はな[し]
1	44-1	(シnten)	1	75-1	ナカヨ[シ]
1	44-2	シnten(の)はな[し]	1	75-2	ナカヨシ[の]はな[し]
1	45-1	(シnpuzz)	1	76-1	ナキゴ[エ]
1	45-2	シnpuzz(の)はな[し]	1	76-2	ナキゴエ[の]はな[し]
1	46-1	[ジnpō]	1	77-1	ナマゴ[ミ]
1	46-2	ジnpō(の)はな[し]	1	77-2	ナマゴミ[の]はな[し]
1	47-1	スドマ[リ]～スドマ[リ]	1	78-1	ニザカ[ナ]
1	47-2	スドマリ[の]はな[し]～スドマリ[の]はな[し]	1	78-2	ニザカナ[の]はな[し]
1	48-1	スミズ[ミ]	1	79-1	(ニタマゴ)
1	48-2	スミズミ[の]はなし	1	79-2	ニタマゴ[の]はな[し]
1	49-1	(スミッコ)	1	80-1	ニヅク[リ]
1	49-2	スミッコ[の]はな[し]	1	80-2	ニヅクリ[の]はな[し]
1	50-1	ゼーキン	1	81-1	ニワト[リ]
1	50-2	ゼーキン[の]はな[し]	1	81-2	ニワトリ[の]はな[し]
1	51-1	(セッケン)	1	82-1	(ニンギョー)～ニン[ギョー]
1	51-2	セッケン(の)はな[し]	1	82-2	ニンギョー[の]はな[し]
1	52-1	(センセー)	1	83-1	ニン[ゲン]
1	52-2	センセー(の)はな[し]	1	83-2	ニンゲン[の]はな[し]
1	53-1	(ゾーキン)	1	84-1	ニン[ジン]
1	53-2	ゾーキン(の)はな[し]	1	84-2	ニンジン[の]はな[し]
1	54-1	(タイワン)	1	85-1	ネブソ[ク]
1	54-2	タイワン(の)はな[し]	1	85-2	ネブソク[の]はな[し]
1	55-1	(タケノ)[コ]	1	86-1	(ネンレー)
1	55-2	タケノコ[の]はな[し]	1	86-2	ネンレー[の]はな[し]
1	56-1	タテカ[エ]	1	87-1	ノビ+ノ[ピ]
1	56-2	タテカエ[の]はな[し]	1	87-2	ノビ+ノビ[の]はな[し]
1	57-1	タテモノ	1	88-1	ノミカ[タ]
1	57-2	タテモノ[の]はな[し]	1	88-2	ノミカタ[の]はな[し]
1	58-1	(ダンラン) ×ダン[ラン]	1	89-1	ノミモノ
1	58-2	(ダンラン)[の]はな[し]	1	89-2	ノミモノ[の]はな[し]
1	59-1	テアラ[イ]～テアラ[イ]	1	90-1	ノライ[ヌ]
1	59-2	テアライ[の]はな[し]	1	90-2	ノライヌ[の]はな[し]
1	60-1	テアワ[セ]	1	91-1	ノラネ[コ]
1	60-2	テアワセ[の]はな[し]	1	91-2	ノラネコ[の]はな[し]
1	61-1	テゴタ[エ]～テゴ[タエ]	1	92-1	ハチガ[ツ]
1	61-2	テゴタエ[の]はな[し]	1	92-2	ハチガツ[の]はな[し]
1	62-1	テザワ[リ]	1	93-1	ハチ-ノ+[ス]
1	62-2	テザワリ[の]はな[し]	1	93-2	ハチ-ノ+ス[の]はな[し]
1	63-1	テツカ[ミ]	1	94-1	ハナミ[ズ]
1	63-2	テツカミ[の]はな[し]	1	94-2	ハナミズ[の]はな[し]
1	64-1	テツク[リ]	1	95-1	ハナラ[ビ]
1	64-2	テツクリ[の]はな[し]	1	95-2	ハナラビ[の]はな[し]
1	65-1	テヌグ[イ]～テヌ[グイ]	1	96-1	ハブラ[シ]
1	65-2	テヌグイ[の]はな[し]	1	96-2	ハブラシ[の]はな[し]
1	66-1	テノヒ[ラ]	1	97-1	ハマダ[リ]
1	66-2	テノヒラ[の]はなし	1	97-2	ハマダリ[の]はな[し]
1	67-1	テブク[ロ]	1	98-1	ハミガ[キ]
1	67-2	テブクロ[の]はな[し]	1	98-2	ハミガキ[の]はな[し]
1	68-1	テミジ[カ]	1	99-1	ハリガ[ネ]
1	68-2	テミジカ[の]はな[し]	1	99-2	ハリガネ[の]はな[し]
1	69-1	テミヤ[ゲ]	1	100-1	ハルサ[メ]
1	69-2	テミヤゲ[の]はな[し]	1	100-2	ハルサメ[の]はな[し]
1	70-1	トキド[キ]	1	101-1	ハン[タイ]～ハン[タイ]
1	70-2	トキドキ[の]はな[し]	1	101-2	ハンタイ[の]はな[し] ×ハン[タイ]はな[し]
1	71-1	ドヨー[ビ]	1	102-1	(ハンノー)
1	71-2	ドヨービ[の]はな[し]	1	102-2	ハンノー[の]はな[し]
1	72-1	ドロ[ボー]	1	103-1	ハン[ブン]
1	72-2	ドロボー[の]はな[し]	1	103-2	ハンブン[の]はな[し]
1	73-1	ナガグ[ツ]	1	104-1	ヒアブ[リ]



グループ	番号	ピッチ	グループ	番号	ピッチ
1	104-2	ヒアブリ[の]はな[し]	1	135-2	マボロシ[の]はな[し]
1	105-1	ヒカ[ゲン]~ヒカゲ[ン]	1	136-1	マン+ナ[カ]
1	105-2	ヒカゲン[の]はな[し]	1	136-2	マン+ナカ[の]はな[し]
1	106-1	ヒタス(ラ)	1	137-1	マン+マ[エ]~マン+[マエ]
1	106-2	ヒタスラ[の]はな[し]	1	137-2	マン+マエ[の]はな[し]
1	107-1	(ヒダマリ)	1	138-1	ミウゴ[キ]
1	107-2	ヒダマリ[の]はな[し]	1	138-2	ミウゴキ[の]はな[し]
1	108-1	ヒタム[キ]	1	139-1	ミオボ[エ] ×ミオ[ボエ]
1	108-2	ヒタムキ[の]はな[し]	1	139-2	ミオボエ[の]はな[し]
1	109-1	ヒダル[マ]	1	140-1	ミ[カ]ヅ[キ]~ミカヅ[キ]
1	109-2	ヒダルマ[の]はな[し]	1	140-2	ミカヅキ[の]はな[し]
1	110-1	ヒド[ケー]~(ヒドケー)	1	141-1	ミズー[ミ]
1	110-2	ヒドケー[の]はな[し]	1	141-2	ミズーミ[の]はな[し]
1	111-1	ヒトビト]	1	142-1	ミゾオ[チ]~ミ(ゾ)オ[チ]
1	111-2	ヒトビト[の]はな[し]	1	142-2	ミゾオチ[の]はな[し]
1	112-1	ヒバシ[ラ]	1	143-1	ミソシ[ル]
1	112-2	ヒバシラ[の]はな[し]	1	143-2	ミソシル[の]はな[し]
1	113-1	ヒマワ[リ]	1	144-1	ミツバ[チ]
1	113-2	ヒマワリ[の]はな[し]	1	144-2	ミツバチ[の]はな[し]
1	114-1	ヒヤア[セ]	1	145-1	ミ(ナ)オ[シ]~ミナオ[シ]
1	114-2	ヒヤアセ[の]はな[し]	1	145-2	ミナオシ[の]はな[し]
1	115-1	ヒルメ[シ]	1	146-1	(ミハラシ)
1	115-2	ヒルメシ[の]はな[し]	1	146-2	ミハラシ[の]はな[し]
1	116-1	フー[セン]~フーセ[ン]	1	147-1	ミミタ[ブ]
1	116-2	フーセン[の]はな[し]	1	147-2	ミミタブ[の]はな[し]
1	117-1	フカ[ノー]~フカノ[ー]	1	148-1	ムイシ[キ]
1	117-2	フカノー[の]はな[し]	1	148-2	ムイシキ[の]はな[し]
1	118-1	フキ[ゲン]	1	149-1	(ムカシ)
1	118-2	フキゲン[の]はな[し]	1	149-2	ムカシ-[ノ]はな[し]
1	119-1	ブキ[ヨー]	1	150-1	ムサベ[ツ]
1	119-2	ブキヨー[の]はな[し]	1	150-2	ムサベツ[の]はな[し]
1	120-1	フクミ(ミ)	1	151-1	ムゾオ[サ] ×ムゾ[オサ]
1	120-2	フクミミ[の]はな[し]	1	151-2	ムゾオサ[の]はな[し]
1	121-1	フク[ロー]~フクロ[ー]	1	152-1	ムラサ[キ]
1	121-2	フクロー[の]はな[し]	1	152-2	ムラサキ[の]はな[し]
1	122-1	ブサイ[ク]	1	153-1	メイッ[コ]~(メイッコ)
1	122-2	ブサイク[の]はな[し]	1	153-2	メイッコ[の]はな[し]
1	123-1	フトコ[ロ]	1	154-1	メカク[シ]
1	123-2	フトコロ[の]はな[し]	1	154-2	メカクシ[の]はな[し]
1	124-1	(フトモモ)	1	155-1	メガシ[ラ]~(メガシラ)
1	124-2	フトモモ[の]はな[し]	1	155-2	メガシラ[の]はな[し]
1	125-1	フル[サ]ト~フルサ[ト]	1	156-1	メグス[リ]
1	125-2	フルサト[の]はな[し]	1	156-2	メグスリ[の]はな[し]
1	126-1	ヘタク(ソ)	1	157-1	(メ[ザ]マ[シ]~)メザマ[シ]
1	126-2	ヘタクソ[の]はな[し]	1	157-2	メザマシ[の]はな[し]
1	127-1	(ヘンジン)~ヘン(ジン)	1	158-1	(モンダイ) ×モンダ[イ]~モン[ダイ]
1	127-2	ヘンジン[の]はな[し]	1	158-2	モンダイ[の]はな[し]
1	128-1	ホバシ[ラ]	1	159-1	ヤジル[シ]
1	128-2	ホバシラ[の]はな[し]	1	159-2	ヤジルシ[の]はな[し]
1	129-1	マキガ[イ]	1	160-1	(サンドー)
1	129-2	マキガイ[の]はな[し]	1	160-2	ヤマミ[チ]
1	130-1	マゴコ[ロ]	1	161-1	サンドー[の]はな[し]
1	130-2	マゴコロ[の]はな[し]	1	161-2	ヤマミチ[の]はな[し]
1	131-1	マ[チ]マ[チ]	1	162-1	ヤマヤ[マ]
1	131-2	マチマチ[の]はな[し]	1	162-2	ヤマヤマ[の]はな[し]
1	132-1	マッサ[オ]	1	163-1	ユタン[ボ]
1	132-2	マッサオ[の]はな[し]	1	163-2	ユタンボ[の]はな[し]
1	133-1	マツタ[ケ]	1	164-1	ユドー[フ]
1	133-2	マツタケ[の]はな[し]	1	164-2	ユドーフ[の]はな[し]
1	134-1	マバタ[キ]	1	165-1	ヨアソ[ビ]
1	134-2	マバタキ[の]はな[し]	1	165-2	ヨアソビ[の]はな[し]
1	135-1	(マボロシ)~マボロ[シ]	1	166-1	(ヨザクラ)

グループ	番号	ピッチ	グループ	番号	ピッチ
1	166-2	ヨザクラ[の]はな[し]	2	197-2	アセカ[キ]はな[し]
1	167-1	(ワルグチ)	2	198-1	アツガ[ミ]
1	167-2	ワルグチ[の]はな[し]	2	198-2	アツガ[ミ]はな[し]
2	168-1	シーエ[ム]	2	199-1	アツガ[リ]
2	168-2	シーエ[ム]はなし	2	199-2	アツガ[リ]はな[し]
2	169-1	イベン[ト]	2	200-1	アマザ[ケ]
2	169-2	イベン[ト]はな[し]	2	200-2	アマザ[ケ]はな[し]
2	170-1	コメン[ト]	2	201-1	アマミ[ズ]
2	170-2	コメン[ト]はな[し]	2	201-2	アマミ[ズ]はな[し]
2	171-1	ジョギン[グ]	2	202-1	アミモ[ノ]
2	171-2	ジョギン[グ]はな[し]	2	202-2	アミモ[ノ]はな[し]~アミモ[ノ]はな[し]
2	172-1	ベラン[ダ]	2	203-1	イザコ[ザ]
2	172-2	ベラン[ダ]はな[し]	2	203-2	イザコ[ザ]はな[し]
2	173-1	ガソ[リン]	2	204-1	イタズ[ラ]
2	173-2	ガソ[リン]はな[し]	2	204-2	イタズ[ラ]はな[し]~イタズ[ラ]はな[し]
2	174-1	アメリ[カ]	2	205-1	イチガ[ツ]
2	174-2	アメリ[カ]はな[し]	2	205-2	イチガ[ツ]はな[し]
2	175-1	リハビ[リ]	2	206-1	(イチニ)[チ]
2	175-2	リハビ[リ]はな[し]	2	206-2	イチニ[チ]はな[し]
2	176-1	イラス[ト]	2	207-1	イノコ[リ]
2	176-2	イラス[ト]はなし	2	207-2	イノコ[リ]はな[し]
2	177-1	キャラメ[ル]	2	208-1	イモー[ト]
2	177-2	キャラメ[ル]はな[し]	2	208-2	イモー[ト]はな[し]
2	178-1	クレ[ヨン]	2	209-1	イロイ[ロ]
2	178-2	クレ[ヨン]はな[し]~クレ[ヨン]はな[し]	2	209-2	イロイ[ロ]はな[し]
2	179-1	カフェ[イン]	2	210-1	ウソハ[キ]
2	179-2	カフェ[イン]はな[し]	2	210-2	ウソハ[キ]はな[し]
2	180-1	レプリ[カ]	2	211-1	ウチケ[シ]
2	180-2	レプリ[カ]はなし~レプリ[カ]はなし	2	211-2	ウチケ[シ]はなし
2	181-1	ネン[レー]	2	212-1	ウラゴ[エ]
2	181-2	ネン[レー]はなし	2	212-2	ウラゴ[エ]はな[し]
2	182-1	ビョー[イン]	2	213-1	エゴコ[ロ]
2	182-2	ビョー[イン]はな[し]	2	213-2	エゴコ[ロ]はな[し]
2	183-1	ケンガ[ク]	2	214-1	エダマ[メ]
2	183-2	ケンガ[ク]はな[し]	2	214-2	エダマ[メ]はな[し]
2	184-1	レンラ[ク]	2	215-1	エニツ[キ]
2	184-2	レンラ[ク]はな[し]	2	215-2	エニツ[キ]はな[し]
2	185-1	ギューニ[ク]	2	216-1	エハガ[キ]
2	185-2	ギューニ[ク]はな[し]	2	216-2	エハガ[キ]はな[し]
2	186-1	セーカ[ク]	2	217-1	オアズ[ケ]
2	186-2	セーカ[ク]はな[し]	2	217-2	オアズ[ケ]はな[し]
2	187-1	ガッシュ[ク]	2	218-1	オイワ[イ]
2	187-2	ガッシュ[ク]はな[し]	2	218-2	オイワ[イ]はな[し]
2	188-1	チョッカ[ク]	2	219-1	オオゼ[イ]
2	188-2	チョッカ[ク]はなし	2	219-2	オオゼ[イ]はな[し]
2	189-1	チョコ[セン]	2	220-1	オカエ[シ]
2	189-2	チョコ[セン]はな[し]	2	220-2	オカエ[シ]はな[し]
2	190-1	コクセ[キ]	2	221-1	オカワ[リ]
2	190-2	コクセ[キ]はな[し]	2	221-2	オカワ[リ]はな[し]
2	191-1	ケツア[ツ]	2	222-1	オクヤ[ミ]
2	191-2	ケツア[ツ]はな[し]	2	222-2	オクヤ[ミ]はな[し]
2	192-1	ヤクソ[ク]	2	223-1	オシオ[キ]
2	192-2	ヤクソ[ク]はな[し]	2	223-2	オシオ[キ]はな[し]
2	193-1	アオゾ[ラ]	2	225-1	オトー[ト]
2	193-2	アオゾ[ラ]はな[し]	2	225-2	オトー[ト]はな[し]
2	194-1	アシオ[ト]	2	226-1	オト[トイ]
2	194-2	アシオ[ト]はな[し]	2	226-2	オト[トイ]はな[し]
2	195-1	アシク[ビ]	2	227-1	オナマ[エ]
2	195-2	アシク[ビ]はな[し]	2	227-2	オナマ[エ]はな[し]
2	196-1	アジ[サイ]	2	228-1	オハナ[ミ]
2	196-2	アジ[サイ]はな[し]	2	228-2	オハナ[ミ]はな[し]
2	197-1	アセカ[キ]	2	229-1	オミク[ジ]

麻生 玲子：4モーラ名詞から見るやんばるヤマトウグチのアクセントの記述と分析

グループ	番号	ピッチ	グループ	番号	ピッチ
2	229-2	オミク[ジの]はな[し]	2	260-2	クスノ[キの]はな[し]
2	230-1	オヤユ[ビ]	2	261-1	クダモ[ノ]
2	230-2	オヤユ[ビの]はな[し]	2	261-2	クダモ[ノの]はな[し]
2	231-1	カゲグ[チ]~(カゲグチ)	2	262-1	クチバ[シ]
2	231-2	カゲグ[チの]はな[し]	2	262-2	クチバ[シの]はな[し]
2	232-1	カケッ[コ]	2	263-1	クチビ[ル]
2	232-2	カケッ[コの]はな[し]	2	263-2	クチビ[ルの]はな[し]
2	233-1	カザカ[ミ]	2	264-1	クチブ[エ]
2	233-2	カザカ[ミの]はな[し]	2	264-2	クチブ[エの]はな[し]
2	234-1	カズカ[ズ]	2	265-1	クツシ[タ]
2	234-2	カズカ[ズの]はな[し]	2	265-2	クツシ[タの]はな[し]~クツシ[タの]はな[し]
2	235-1	カナヅ[チ]	2	266-1	クニグ[ニ]
2	235-2	カナヅ[チの]はな[し]	2	266-2	クニグ[ニの]はな[し]
2	236-1	カネモ[チ]	2	267-1	クモ-ノ+[ス]
2	236-2	カネモ[チの]はな[し]	2	267-2	クモ-ノ+[スの]はな[し]
2	237-1	カミク[ズ]~(カミクズ)	2	268-1	ケー[サン]
2	237-2	カミク[ズの]はな[し]	2	268-2	ケー[サン]のはな[し]
2	238-1	カミソ[リ]	2	269-1	ケギ[ライ]~ケギ[ライ]
2	238-2	カミソ[リの]はな[し]	2	269-2	ケギ[ライの]はな[し]~ケギ[ライの]はな[し]
2	239-1	カミナ[リ]	2	270-1	ケシゴ[ム]
2	239-2	カミナ[リの]はな[し]	2	270-2	ケシゴ[ムの]はな[し]
2	240-1	カミ-ノ+[ケ]	2	271-1	ケッ[カン]
2	240-2	カミ-ノ+[ケの]はな[し]	2	271-2	ケッ[カンの]はな[し]
2	241-1	カモナ[ベ]	2	272-1	ゲー[イン]
2	241-2	カモナ[ベの]はな[し]	2	272-2	ゲー[イン]のはな[し]
2	242-1	カ(ヨ)-[ビ]	2	273-1	コー[エン]
2	242-2	カヨ-[ビの]はな[し]	2	273-2	コー[エンの]はな[し]
2	243-1	カラッ[ボ]	2	274-1	コギッ[テ]
2	243-2	カラッ[ボの]はな[し]	2	274-2	コギッ[テ]のはな[し]
2	244-1	カンガ[エ]	2	275-1	ゴクラ[ク]
2	244-2	カンガ[エの]はな[し]	2	275-2	ゴクラ[クの]はな[し]
2	245-1	カンケ[リ]	2	276-1	ココノ[ツ]
2	245-2	カンケ[リの]はな[し]	2	276-2	ココノ[ツの]はな[し]
2	246-1	カンヌ[シ]	2	277-1	ココロ[エ]
2	246-2	カンヌ[シの]はな[し]	2	277-2	ココロ[エ]のはな[し]
2	247-1	キガカ[リ]	2	278-1	コザイ[ク]
2	247-2	キガカ[リの]はな[し]	2	278-2	コザイ[クの]はな[し]
2	248-1	キクバ[リ]	2	279-1	コソダ[テ]
2	248-2	キクバ[リの]はな[し]	2	279-2	コソダ[テ]のはな[し]
2	249-1	キゴコ[ロ]	2	280-1	コツツ[ミ]
2	249-2	キゴコ[ロの]はな[し]	2	280-2	コツツ[ミの]はな[し]
2	250-1	キズグ[チ]	2	281-1	コトワ[ザ]
2	250-2	キズグ[チの]はな[し]	2	281-2	コトワ[ザの]はな[し]
2	251-1	キッカ[ケ]	2	282-1	コムギ[コ]
2	251-2	キッカ[ケの]はな[し]	2	282-2	コムギ[コ]のはな[し]
2	252-1	キノド[ク]	2	283-1	コリゴ[リ]
2	252-2	キノド[クの]はな[し]	2	283-2	コリゴ[リの]はな[し]
2	253-1	キノボ[リ]	2	284-1	コワモ[テ]
2	253-2	キノボ[リの]はな[し]	2	284-2	コワモ[テ]のはな[し]
2	254-1	キバラ[シ]	2	285-1	コンダ[テ]
2	254-2	キバラ[シの]はな[し]	2	285-2	コンダ[テ]のはな[し]
2	255-1	キョ-[ダイ]	2	286-1	コンニャ[ク]
2	255-2	キョ-[ダイの]はな[し]	2	286-2	コンニャ[クの]はな[し]
2	256-1	ギョ-レ[ツ]	2	287-1	サカダ[チ]
2	256-2	ギョ-レ[ツの]はな[し]	2	287-2	サカダ[チ]のはな[し]
2	257-1	キリカ[ブ]	2	288-1	サカミ[チ]
2	257-2	キリカ[ブの]はな[し]	2	288-2	サカミ[チ]のはな[し]
2	258-1	キリフ[ダ]	2	289-1	ザブ[トン]
2	258-2	キリフ[ダの]はな[し]	2	289-2	ザブ[トン]のはな[し]
2	259-1	グ-タ[ラ]	2	290-1	サマザ[マ]
2	259-2	グ-タ[ラの]はな[し]	2	290-2	サマザ[マ]のはな[し]
2	260-1	クスノ[キ]	2	291-1	サムガ[リ]

グループ	番号	ピッチ	グループ	番号	ピッチ
2	291-2	サムガ[リの]はな[し]	2	322-1	チカミ[チの]はな[し]
2	292-1	サンガ[ツ]	2	323-2	チャバタ[ケ]
2	292-2	サンガ[ツの]はな[し]	2	323-2	チャバタ[ケの]はな[し]
2	293-1	サン[ザン]	2	324-1	ツキツ[キ]
2	293-2	サン[ザン]のはな[し]	2	324-2	ツキツ[キの]はな[し]
2	294-1	ザン[ネン]	2	325-1	トモダ[チ]
2	294-2	ザン[ネン]のはな[し]	2	325-2	トモダ[チの]はな[し]
2	295-1	シアワ[セ]	3	326-1	[テン]ション
2	295-2	シアワ[セの]はな[し]	3	326-2	[テン]ションのはなし
2	296-1	シオヤ[キ]	3	327-1	[ピン]ボン
2	296-2	シオヤ[キの]はな[し]	3	327-2	[ピン]ボンのはなし
2	297-1	シカエ[シ]	3	328-1	[ナン]バー
2	297-2	シカエ[シ]のはな[し]	3	328-2	[ナン]バー[の]はなし
2	298-1	シタサ[キ]	3	329-1	[シャン]プー
2	298-2	シタサ[キの]はな[し]	3	329-2	[シャン]プーのはなし
2	299-1	シタッ[パ]	3	330-1	[マン]ゴー
2	299-2	シタッ[パの]はな[し]	3	330-2	[マン]ゴーのはなし
2	300-1	シチガ[ツ]	3	331-1	[カー]テン
2	300-2	シチガ[ツの]はな[し]	3	331-2	[カー]テンのはなし
2	301-1	シッカ[リ]	3	332-1	[ファッ]ション
2	301-2	シッカ[リの]はな[し]	3	332-2	[ファッ]ションのはな[し]
2	302-1	シック[イ]	3	333-1	[レッ]スン
2	302-2	シック[イの]はな[し]	3	333-2	[レッ]スン[の]はなし
2	303-1	シナモ[ノ]	3	334-1	[カッ]ター
2	303-2	シナモ[ノの]はな[し]	3	334-2	[カッ]ター[の]はなし
2	304-1	ジューガ[ツ]	3	335-1	[キャン]セル
2	304-2	ジューガ[ツの]はな[し]	3	335-2	[キャン]セル[の]はなし
2	305-1	(シュート)[メ]	3	336-1	[ドー]ナツ
2	305-2	シュート[メの]はな[し]	3	336-2	[ドー]ナツ[の]はなし
2	306-1	ジューニ[ジ]	3	337-1	[カッ]プル
2	306-2	ジューニ[ジの]はな[し]	3	337-2	[カッ]プル[の]はなし
2	307-1	ショーガ[ツ]	3	338-1	[ワッ]フル
2	307-2	ショーガ[ツの]はな[し]	3	338-2	[ワッ]フル[の]はなし
2	308-1	ショージ[キ]	3	339-1	[メ]リット
2	308-2	ショージ[キの]はな[し]	3	339-2	[メ]リット[の]はなし
2	309-1	シロゴ[マ]	3	340-1	[シ]ナモン
2	309-2	シロゴ[マの]はな[し]	3	340-2	[シ]ナモン[の]はなし
2	310-1	ジンカ[ク]	3	341-1	[カ]ロリー
2	310-2	ジンカ[クの]はな[し]	3	341-2	[カ]ロリー[の]はなし
2	311-1	シン[セン]	3	342-1	[コ]メディー
2	311-2	シン[セン]のはな[し]	3	342-2	[コ]メディー[の]はなし
2	312-1	ス[キ]ズ[キ]～スキズ[キ]	3	343-1	[マ]フラー
2	312-2	スキズキ[の]はな[し]～ス[キ]ズキ[の]はな[し]	3	343-2	[マ]フラー[の]はなし
2	313-1	スジョー[ユ]～ス[ジョー]ー[ユ]	3	344-1	[メ]ロディー
2	313-2	スジョー[ユの]はな[し]～スジョー[ユの]はな[し]	3	344-2	[メ]ロディー[の]はなし
2	314-1	ゼータ[ク]	3	345-1	[ア]クセル
2	314-2	ゼータ[クの]はな[し]	3	345-2	[ア]クセル[の]はなし
2	315-1	セキガ[エ]	3	346-1	[デ]ジタル
2	315-2	セキガ[エの]はな[し]～セキガエ[の]はな[し]	3	346-2	[デ]ジタル[の]はなし
2	316-1	セトウ[チ]	3	347-1	[ショー]ヒン
2	316-2	セトウ[チの]はな[し]	3	347-2	[ショー]ヒン[の]はなし
2	317-1	タイ[ヨー]	3	348-1	[リョー]シン
2	317-2	タイ[ヨーの]はな[し]～タイヨー[の]はな[し]	3	348-2	[リョー]シン[の]はなし
2	318-1	タツマ[キ]	3	349-1	[シュー]キョー
2	318-2	タツマ[キの]はな[し]	3	349-2	[シュー]キョー[の]はなし
2	319-1	タベカ[タ]	3	350-1	[ジュー]ドー
2	319-2	タベカ[タの]はな[し]	3	350-2	[ジュー]ドー[の]はなし
2	320-1	タベモ[ノ]	3	351-1	[テイ]ネー
2	320-2	タベモ[ノの]はな[し]	3	351-2	[テイ]ネー[の]はなし
2	321-1	チカヂ[カ]	3	352-1	[ケッ]シン
2	321-2	チカヂ[カの]はな[し]	3	352-2	[ケッ]シン[の]はなし
2	322-1	チカミ[チ]	3	353-1	[セッ]テン

麻生 玲子：4モーラ名詞から見るやんばるヤマトウグチのアクセントの記述と分析

グループ	番号	ピッチ
3	353-2	[セツ]テン[の]はなし
3	354-1	[イッ]ケン
3	354-2	[イッ]ケン[の]はなし
3	355-1	[ケッ]コー
3	355-2	[ケッ]コー[の]はなし
3	356-1	[ニッ]コー
3	356-2	[ニッ]コー[の]はなし
3	357-1	[シン](セ)ツ
3	357-2	[シン](セ)ツ[の]はなし
3	359-1	[メン]セキ
3	359-2	[メン]セキのはなし[し]～[メン]セキ[の]はなし[し]
3	360-1	[ニ]チベ
3	360-2	[ニ]チベ[の]はなし(し)
3	361-1	[ハ]クジョー
3	361-2	[ハ]クジョー[の]はなし(し)
3	362-1	[ショー]ヒン
3	362-2	[ショー]ヒン[の]はなし
3	363-1	[アイ]サツ
3	363-2	[アイ]サツ[の]はなし[し]
3	364-1	[カ]ミサマ※普段使わない
3	364-2	[カ]ミサマ[の]はなし[し]
3	365-1	[ケッ]シン
3	365-2	[ケッ]シンのはなし[し]
3	366-1	[コン]カイ
3	366-2	[コン]カイのはなし[し]
3	367-1	[ジン]セー
3	367-2	[ジン]セー[の]はなし[し]
3	368-1	[シン]ネン
3	368-2	[シン]ネンのはなし[し]
3	369-1	[タ]マシイ～[タ]マシ[イ]
3	369-2	[タ]マシイ[の]はなし
3	370-1	[タン]ボボ
3	370-2	[タン]ボボ[の]はなし[し]
3	371-1	[チュ]ーゴク
3	371-2	[チュ]ーゴク[の]はなし
3	372-1	[ノー]ギョ[オ]～[ノー]ギョ[オ]
3	372-2	[ノー]ギョー[の]はなし[し]
3	373-1	[エ]ンジン
3	373-2	[エ]ンジンのはなし[し]
3	374-1	[チュ]ーガ[ク]～[チュ]ーガ[ク]
3	374-2	[チュ]ーガクのはなし[し]
3	375-1	[ノー]リョ[ク]
3	375-2	[ノー]リョクのはなし[し]
3	376-1	[オン]ガ[ク]
3	376-2	[オン]ガクのはなし[し]
その他①	377-1	ス[プ]ーン
その他①	377-2	ス[プ]ーンのはなし[し]
その他①	378-1	ト[ラッ](ク)
その他①	378-2	ト[ラッ]クのはなし[し]
その他①	379-1	ス[ペ]イン
その他①	379-2	ス[ペ]インのはなし[し]
その他①	380-1	イ[エ]ロー
その他①	380-2	イ[エ]ロー[の]はなし
その他①	381-1	オ[ト]ト[シ]
その他①	381-2	オ[ト]トシのはなし[し]
その他①	382-1	オ[ト]ナ[リ]
その他①	382-2	オ[ト]ナリのはなし[し]
その他②	383-1	キン[ヨ]ー
その他②	383-2	キン[ヨー]のはなし[し]
その他②	384-1	ゲツ[ヨ]ー
その他②	384-2	ゲツ[ヨー]のはなし[し]～ゲツ[ヨ]ーのはなし[し]
その他②	385-1	スイ[ヨ]ー～スイ[ヨ]ー

グループ	番号	ピッチ
その他②	385-2	スイ[ヨー]のはなし[し]～スイ[ヨ]ーのはなし[し]
その他②	386-1	ニチ[ヨ]ー～ニチ[ヨー]
その他②	386-2	ニチ[ヨー]のはなし[し]～ニチヨー[の]はなし[し]
不明	387-1	ガ(クセー)
不明	387-2	ガク[セー]のはなし(し)
不明	388-1	ア[ケ]+シ[メ]
不明	388-2	アケ+[シメ]のはなし[し]
不明	389-1	ア(サッテ)
不明	389-2	アサッ[テ]のはなし[し]
1/2 混合	390-1	カンケ[ー]
1/2 混合	390-2	カンケ[ー]のはなし[し]～カンケー[の]はなし[し]
1/2 混合	391-1	ジヒビ[キ]
1/2 混合	391-2	ジヒビキ[の]はなし[し]～ジヒビ[キ]のはなし[し]
1/2 混合	392-1	タマネ[ギ]
1/2 混合	392-2	タマネ[ギ]のはなし[し]～タマネギ[の]はなし[し]
1/2 混合	393-1	ツイタ[チ]
1/2 混合	393-2	ツイタ[チ]のはなし[し]～ツイタチ[の]はなし[し]
1/2 混合	394-1	テーブ[ル]～(テーブル)
1/2 混合	394-2	テーブ[ル]のはなし
1/2 混合	395-1	クレー(プ)
1/2 混合	395-2	クレープ(の)はなし[し]～クレー(プ)のはなし[し]
1/2 混合	396-1	レ(ポー)[ト]
1/2 混合	396-2	レ(ポー)トのはなし[し]
1/2 混合	397-1	(ポケット)
1/2 混合	397-2	ポケット[ト]のはなし
1/2 混合	398-1	(ポジション)
1/2 混合	398-2	ポジ(ション)のはなし[し]
1/2 混合	399-1	ソクタ[ツ]
1/2 混合	399-2	ソク[タツ]のはなし(し)
1/2 混合	400-1	アイカ[ギ]
1/2 混合	400-2	アイ[カギ]のはなし[し]
1/2 混合	401-1	アジア[ト]
1/2 混合	401-2	ア[シア]トのはなし[し]
1/2 混合	402-1	イカメ[ラ]～(イカメラ)
1/2 混合	402-2	イカメ[ラ]のはなし[し]
1/2 混合	403-1	イジワ(ル)～(イジワル)
1/2 混合	403-2	イジワ[ル]のはなし
1/2 混合	404-1	(イドコロ)
1/2 混合	404-2	イドコ[ロ]のはなし[し]
1/2 混合	405-1	(イネムリ)～イネム(リ)
1/2 混合	405-2	イネム[リ]のはなし[し]
1/2 混合	406-1	オ(キモ)[ノ]
1/2 混合	406-2	オ[キモノ]のはなし[し]
1/2 混合	407-1	(オサガリ)～オサガ(リ)
1/2 混合	407-2	オサガ[リ]のはなし[し]
1/2 混合	408-1	オシボ[リ]
1/2 混合	408-2	オ[シ]ボリのはなし[し]
1/2 混合	409-1	(オシャベリ)
1/2 混合	409-2	オシャベ[リ]のはなし[し]
1/2 混合	410-1	(オニギリ)
1/2 混合	410-2	オニギリ[の]はなし[し]～オニギリ[の]はなし[し]
1/2 混合	411-1	オマモ[リ]
1/2 混合	411-2	オマモ[リ]のはなし[し]～オマモリ[の]はなし[し]
1/2 混合	412-1	オミア[イ]～(オミアイ)
1/2 混合	412-2	オミアイ[の]はなし[し]～オミアイ[の]はなし[し]
1/2 混合	413-1	オン[セン]～(オンセン)
1/2 混合	413-2	オンセン[の]はなし[し]～オン[セン]のはなし[し]
1/2 混合	414-1	(カクレガ)
1/2 混合	414-2	カクレ[ガ]のはなし[し]～カクレガ[の]はなし[し]
1/2 混合	415-1	(カンバン)
1/2 混合	415-2	カンバン[の]はなし[し]～カンバン[の]はなし[し]
1/2 混合	416-1	(キクラゲ)

グループ	番号	ピッチ
1/2 混合	416-2	キクラ[ゲの]はな[し]
1/2 混合	417-1	(キノセイ)
1/2 混合	417-2	キノ[セーの]はな[し]~キノセー[の]はな[し]
1/2 混合	418-1	キューヨ[ー]~(キューヨー)
1/2 混合	418-2	キューヨ[ーの]はな[し]
1/2 混合	420-1	(クルブシ)
1/2 混合	420-2	クルブ[シの]はな[し]
1/2 混合	421-1	シンブン
1/2 混合	421-2	シン[ブン]のはな[し]~シンブン(の)はな[し]
1/2 混合	422-1	(スドー)[リ]
1/2 混合	422-2	スドーリ[の]はな[し]~スドー[リ]のはな[し]
1/2 混合	423-1	チャバシ[ラ]
1/2 混合	423-2	チャバシラ[の]はな[し]~チャバシ[ラの]はな[し]
1/2 混合	424-1	テリヤ[キ]
1/2 混合	424-2	テリヤ[キの]はな[し]~テリヤキ[の]はな[し]~テリヤ[キ]のはな[し]
1/2 混合	425-1	トシヨ[リ]~(トシヨリ)
1/2 混合	425-2	トシヨ[リの]はな[し]
1/2 混合	426-1	ニ[ホン]~ニッ[ボン]
1/2 混合	426-2	ニ[ホンの]はな[し]~ニッボン[の]はな[し]
1/2 混合	427-1	ハチノ[へ]
1/2 混合	427-2	ハチノへ[の]はな[し]~ハチノ[へ]のはな[し]
1/2 混合	428-1	ヒアソ[ビ]
1/2 混合	428-2	ヒアソビ[の]はな[し]~ヒアソ[ビ]のはな[し]
1/2 混合	429-1	ミナモト
1/2 混合	429-2	ミナモト[の]はな[し]~ミナモト[の]はな[し]
1/2 混合	430-1	モク[ヨー]
1/2 混合	430-2	モク[ヨーの]はな[し]~モクヨー[の]はな[し] ×モク[ヨー]のはな[し]
1/2 混合	224-1	オソナ[エ]
1/2 混合	224-2	オソナ[エの]はな[し]~オソナエ[の]はな[し]
1/3 混合	431-1	[シャッ]クリ
1/3 混合	431-2	シャックリ[の]はな[し]
1/3 混合	432-1	[シン]セツ
1/3 混合	432-2	シンセツ[の]はな[し]
1/3 混合	433-1	[ジン]ブツ
1/3 混合	433-2	ジンブツ(の)はな[し]
2/3 混合	434-1	[イ]タノ[マ]
2/3 混合	434-2	イタノ[マの]はな[し]
2/3 混合	435-1	[カン]ピョ[ー]~[カン]ピョー
2/3 混合	435-2	カン[ピョーの]はな[し]
1/2/3 混合	436-1	[ショー]ライ
1/2/3 混合	436-2	ショーライ[の]はな[し]~ショーラ[イの]はな[し]
1/2/3 混合	419-1	(キンニク)~[キン]ニ[ク]~[キン]ニク
1/2/3 混合	419-2	キンニ[クの]はな[し]~[キン]ニクのはな[し]